

# Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

## マツケンとサッパで討ち入り

# 松平健「忠臣蔵」

「マツケンサンバII」のリリィが、某屋の帯番組の司会者が言うところの「中高年のお嬢さん方」に対する人気をさらに確固たるものとした松平健。その松平がテレビ朝日開局45周年記念ドラマ「忠臣蔵」で大石内蔵助を演じる事に決定した。日本人の魂を揺さぶり続ける「忠臣蔵」は、テレビや映画の世界では特別な意味を持つドラマだ。映画全盛時の映画会社各社は、会社の力が充実した証として忠臣蔵を製作した。ご存じ四十七士に他の人物も加える、登場人物は膨大な人数にな

る。忠臣蔵を製作するとなると、まずそれらの役を演じるだけの人数的スタミナを抱えていなければならぬ。スケールの大きなドラマ故に、セットや衣装を揃えるのも半端な事ではない。当然、製作費は破格の金額となる。つまり、忠臣蔵を製作出来るという事は、スタミナと資本が潤沢な一流の大会社という証であり、今日の感覚で言えば一部上場を果たすのと同義的なものだ。テレビでも事情は同じで、各局が幾度も記念番組として忠臣蔵を放映してきた。

もう一つ、忠臣蔵が好んで製作されるのは、イベントとして格好の題材であるからでもある。オールスターキャストによる、豊富な見せ場を揃えたドラマの題材となると、忠臣蔵に勝る題材はそうそう見当たらない。日本人の忠臣蔵に並ぶもう一つの年末の大イベントは紅白歌合戦。こちらも松平健が出演しマツケンサンバを披露するといふ。つまり04年の日本は、松平健が忠臣蔵とマツケンサンバで締めくくるのだ。凄じまツケン!



大石内蔵助 良雄

25年前のテレビ朝日開局20周年記念番組「赤穂浪士」で浅野内匠頭を演じた松平健は、25年目にして念願の大石役に、一方、吉良上野介役を依頼された伊東四朗は「ついに来たか」。毎週月曜夜7時、テレビ朝日系放映

## 豊かな時代劇の鉞脈 「隠し剣鬼の爪」

運命の女神は気まぐれで、出合いは突然訪れる。映画監督が惚れ込む題材に出会い、完成した作品が成功する事は極めて希だ。日本の映画界を代表する山田洋次監督は「男はつらいよ」という題材と出合い、大成功を収めた。そして次に山田監督を待っていたのは「時代劇」との出会いだ。藤沢周平原作「たそがれ清兵衛」で時代劇を初演出し、成功を収めた山田監督は「僕は藤沢周平の時代劇という豊かな鉞脈を握り当てたんじゃないかという気がしたんです」とこの豊かな鉞脈から息が湧いて来るのではと、二年越しに第二作「隠し剣鬼の爪」を完成。豊かな鉞脈からあと何作が生まれるのか、今後は楽しみだ。



時は幕末、北国の小藩の若侍達の生き様を描く。出演・永瀬正敏、小澤正敏、松たか子、吉岡秀隆、小津健、田中智子、高島礼子、小林穂花、緒形拳、他。10月30日全国松竹系劇場公開

## 妖怪日記

古から伝えられる妖怪たちの、平凡かつ奇抜々な日々。

### 怒り



### からかさ

1本足でひとつ目の日本有数のメジャーな妖怪。自由奔放で無節操な性格。

### 哀愁坊主

内気でお人好し、ひたすら忍耐強く打たれ強い性格。寂しい時はボエムを嗜む。

## 「牙吉・蹴盾妖怪伝」 妖怪はなぜ恐ろじゆのか?

共存共栄は理想だ、人間同士でそれだから、まして人間と妖怪が理解し合えるなんて夢のまた夢だ。だが厄介なのは、動物と通じた妖怪は知能や感情もある。言葉も話すので人間とコミュニケーションも成立する事だ。古今東西、昔から妖怪は思ひ嫌われ、排除の対象だった。それは姿形が奇異という点、危険を加えるという他に、言葉も話すという事が理由だと筆者は考える。どんなにどう猛な動物も人間並の知能と言葉を持つ。人間は加えても、人間に取って代わる存在ではない。しかし妖怪は人間と同等の知能と言葉を持つ。これが怖い。人間と対等、あるいはそれ以上の異種生物がいるとすれば、それは友好の対象ではなく、人類の脅威と見なされるのだ。

「牙吉・蹴盾妖怪伝」は妖怪が社会の片隅で生きる居場所を求め、牙吉・蹴盾妖怪伝、佳境をむかえた妖怪(大石内蔵助)が再び、出陣! 牙吉・蹴盾妖怪伝、佳境をむかえた妖怪(大石内蔵助)が再び、出陣!

牙吉・蹴盾妖怪伝、佳境をむかえた妖怪(大石内蔵助)が再び、出陣!

共存共栄は理想だ、人間同士でそれだから、まして人間と妖怪が理解し合えるなんて夢のまた夢だ。だが厄介なのは、動物と通じた妖怪は知能や感情もある。言葉も話すので人間とコミュニケーションも成立する事だ。古今東西、昔から妖怪は思ひ嫌われ、排除の対象だった。それは姿形が奇異という点、危険を加えるという他に、言葉も話すという事が理由だと筆者は考える。どんなにどう猛な動物も人間並の知能と言葉を持つ。人間は加えても、人間に取って代わる存在ではない。しかし妖怪は人間と同等の知能と言葉を持つ。これが怖い。人間と対等、あるいはそれ以上の異種生物がいるとすれば、それは友好の対象ではなく、人類の脅威と見なされるのだ。

「牙吉・蹴盾妖怪伝」は妖怪が社会の片隅で生きる居場所を求め

## 今月の言葉

責任編集人  
山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家、映画関連著作多数執筆。

忙しい忙しいでとうとう10月。新作映画は9月撮影の予定が脚本が間に合わず、11月を目指して仕切り直し。しかし現時点(8月28日)でまだ一行も書いていない。そうこうしている間にコミックの脚本とパッチング。来月は修繕場必至。

2004年10月1日 山田誠二